

平成 21 年度 第 3 回 リベラルアーツ教育研究会 報告

日時：平成 21 年 12 月 12 日(土) 第 1 部 13:20-16:30 第 2 部 16:40-18:10

場所：湘北短期大学 7 号館 2 階 721 教室

内容：第 1 部 「ことばを話す」について考える 講師：金子よしえ 氏

金子氏略歴 http://www.necopro.ecnet.jp/src/speak07_1.html

第 2 部 接続教育プログラム コミュニケーションリテラシーの実施内容の確認

13:20-14:50 ことばを使って実況する。ことばで説明する (90 分間)

- ① 話し言葉でさまざまな状況を的確に説明する手法について、アナウンサーとしての体験を踏まえて、金子氏にお話いただいた。
 - ・話すということが独学で行われている。どう話したかより、どう聞こえたかが重要である。
 - ・自分の声を知ること、一文を短くすること、間をとることが必要である。
 - ・いい声に近づけるためには腹式呼吸をしなければならない。
 - ・早口だと思える人は、意識的に間をとることを心がける。
 - ・「あの一」「えー」などを多用するよりは、一旦、止まったほうが良い。
- ② 話すことについてのミニ講義の後、最寄り駅から自宅までの道のりを各自が紹介するワークを行った。各自の話し方を録音したものを全員で聞きながら、金子氏より次のようなアドバイスをいただいた。
 - ・聞きたいことを一番最初に言う。
 - ・自分が見ている映像を相手に映像で伝えることを意識する。
 - ・あらかじめ原稿を書くと、言い換え可能な言葉を見つけることができる。
 - ・事前の原稿作成は、適切な言葉を引き出すことにつながる。
 - ・1 分間のスピーチの場合、4 5 秒間で言える原稿をつくっておく。

15:00-16:30 インタビューをする。話題を引き出す (90 分間)

- ① インタビューにおいて大切な事があるについてのミニ講義があり、次のようなアドバイスをいただいた。
 - ・放送の仕事の基本は、聴くことにある。
 - ・インタビューの基本は、まず聞きたいことから聞く。
 - ・相手の状況を考える想像力がないとダメ。
- ② 「夢中になっていること」「ふるさと」「今一番ほしいもの」「私の母」「今の仕事に就いた理由」のいずれかのテーマで相手にインタビューするワークを行い、次のようなアドバイスをいただいた。
 - ・短く聞いて、長く答えさせる。
 - ・イメージが浮かぶように進める。
 - ・インタビュアーが目立ってはダメ、ゲストが目立つように心がける。
 - ・相手との関係がとても重要で、相手の気持ちに寄り添っていくことを心がける。

その他

- ・早口言葉をつくるというワークを小学生に対して行った事例をご紹介いただいた。
- ・敬語を使わざるを得ない場面を生徒・学生に提供することについてご提案いただいた。
- ・言葉には情報伝達だけでなく人と人との関係を深めるファティックという役割を持つという指摘があった。
- ・より多くの方々に参加していただきたいと思っていたが、逆に少人数であるがゆえに、ワークショップ形式で体験に即して実践的な知見を得ることができた。



講師：金子よしえ氏

ワークショップでの「インタビュー」の様子